

(様式3)

【有田川町】

校務DX計画

校務DXにより校務の効率化、ペーパーレス化を図ることで、教職員の事務負担を軽減し児童生徒と接する時間を確保することにより教育の質の向上を目指します。

校務DXを推進していくために、文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の結果等より教育委員会及び学校が取り組むことが望ましい項目を実現するため、課題やその解決策を記載する。

1. クラウドサービス活用の推進

本町では、教職員にGoogle Workspaceの個人メールアドレスが付与されており、情報共有や連絡等にクラウドサービスを活用できる環境にある。また、保護者連絡システムを導入していることから、保護者からの欠席・遅刻等の連絡や学校からの配布物等の配信はクラウドサービスを利用できる環境にある。しかし、上記チェックリストでは利活用があまり進んでいない状況となっている。

そのため、クラウドサービスの活用が一層進むように各学校への支援を進めていく。

2. 次世代校務システムの導入

校務支援システムについては、和歌山県市町村教育情報化推進協議会のもと共同調達により導入し利用している。

この校務支援システムを利用する校務系と学習系のネットワーク環境は分離しているため、現行のネットワークでは学習系で生成されたデータとの連携が困難であるが、今後上記ネットワークの統合による情報の一元管理やクラウドを活用した校務処理の実現に向け調査研究を進めていく。

3. FAX、押印の原則廃止

学校間や教育委員会と学校との連絡や通知については、グループウェアやメールの活用をより一層進める。また、FAX利用、押印使用については、まだ多くの学校で使用している状況であるが、業務の見直しや関係機関へのFAX・押印の原則廃止について周知することにより見直しを図る。